

さわやかレポート②

親ぼく会から

地域に役立つ組織に

十市の セイレイ従業員

昭和二十六年、香長村当時に結成されたという古い歴史をもつ組織。もともと、十市から通勤する協和農機の従業員のみなさんが親ぼくの意味で結成したもので、最



盛期には百八人で、会費はいまも月百円というから、サイフの方は軽い。会員から、ただの親ぼく会ではどうも...との声もあり、たまたま、香長中学校の生徒がクラブ活動の帰りに、稲生から十市への市道が暗く不安だという声をきいて、とぼしいサイフから防犯灯を七カ所に、カーブミラーを二カ所に設置したり、小学校へ遊具の寄付をするなど「慈善団体」としても活躍してきました。

十月二十一日、市長から感謝状を贈られた十市会（島田平会長）は、「会員（現在は六十一人）みんなの力でこれまでやってこられた。会費の値上げも検討しなければならぬのだが、会の主旨はあくまで親ぼく会。来年、正月の会で話しあうが、自分の間は、いまの施設の維持（電気料は市負担）が手いっばいだろう」と話されていました。

善意で生れ育った「地区組織」。これからも、行政とはちがう分野で、地区に密着した地道な活躍を期待したいものです。



にぎやかに 物産祭り

今年もにぎやかに、十月二日、三日の両日、恒例になった観光物産祭りが、市民体育館で行われました。

この祭りは五年前、商工会が不況風を吹き飛ばし、また商店と消費者とがひざを交えてつながりを深め、商工の発展をさせていこうと始められたものです。初日の十一月二日は、あいにく

の雨でしたが、バザーや利き酒コーナーにはたくさんの方が集まりました。その他、郵便局の記念切手展、好評のタバコの銘柄当て、ジャンボパンの重さ当て、天ぷらやあんころもちの実演販売など催しやお店もいっぱい。

また、この日はこれから一年間、南国市の観光事業にお手伝いをしてもらう、三人の観光コンパニオンの披露が行われました。市観光協会の沢村武一会長より表彰をいただいた三人のおじょうさんの明るい笑顔に買い物客も、しばし足をとめていました。



善意の箱

第九回老人体育大会の優勝旗購入の費用にと、池本土木（樹）と池本興業（樹）よりそれぞれ一万円、計二万円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

「家庭のしつけ」 標語

「青少年の健全育成」のために——南国市連合婦人会（西森律会長）が、九月、市民から募集していた「家庭のしつけ」の標語は、約五十点の応募がありました。その中から、主なものを紹介します。

- みなさんは、どのようにお考えになられるでしょうか。
- 母親の見栄が非行の子を育てようしつけ
- よいしつけ
親が示そうまず手本
よその子も ほめて叱つて
よいしつけ
- ちよつと待て
言うてよいこと悪いこと
- 親と子が何でも話せる
よい家庭
- 幼な子を育てるしつけ
夫婦愛
- 乳飲み子のときのしつけが
まず一歩
- 先生と親とがしつけの
なすり合い
- 親の姿勢がしつけの一步
- 非の道へ暴走させない
愛のむち
- 親と子の心のふれあい
話し合い